

CALENDRIER 上映スケジュール

CINÉ NOUVEAU

会場 シネ・ヌーヴォ

31日 [土] samedi 31 janvier	18:30	カミーユ・クローデル ある天才彫刻家の悲劇 [97min] <i>Camille Claudel 1915</i>
1日 [日] dimanche 1er février	18:30	アッシャー家の末裔 [59min] <i>La Chute de la maison Usher</i>
2日 [月] lundi 2 février	18:30	ハデウェイヒ [105min] <i>Hadewijch</i>
3日 [火] mardi 3 février	18:30	ジーザスの日々 [96min] <i>La Vie de Jésus</i>
4日 [水] mercredi 4 février	16:50	ブティ・カンカン [200min] <i>P'tit Quinquin</i> 15:00よりブリュノ・デュモン監督によるティーチインあり
5日 [木] jeudi 5 février	18:30	アウトサイド・サタン [110min] <i>Hors Satan</i>
6日 [金] vendredi 6 février	18:05	ユマニテ [148min] <i>L'Humanité</i>

■ 入場料金：一般1300円、シニア1100円、学生800円、シネ・ヌーヴォ会員/クラブ・フランス会員800円 ■ チケット販売開始時間：期間中連日10:30より販売（当日券のみ、前売券の販売はございません/整理番号順でのご入場・全席自由席）



〒550-0027
大阪市西区九条1丁目20-24
地下鉄中央線「九条駅」6号出口徒歩3分
阪神なんば線「九条駅」2番出口徒歩3分
☎ 06-6582-1416
✉ www.cinenouveau.co.jp

【お問い合わせ】
アンスティチュ・フランセ関西－京都
(旧 関西日仏学館)
606-8301 京都市左京区吉田泉殿町8
☎ 075-761-2105 Fax: 075-761-2106
✉ kansai@institutfrancais.jp

アンスティチュ・フランセ関西－大阪
(旧 大阪日仏センター=アリアンス・フランセーズ)
530-0041 大阪市北区天神橋2-2-11 阪急産業南森町ビル9階
☎ 06-6358-7391 Fax: 06-6358-7393
✉ kansai.osaka@institutfrancais.jp

KYOTO CINEMA

会場 京都シネマ

31日 [土] samedi 31 janvier	18:50	キングス&クイーン [150min] <i>Rois et reine</i>
1日 [日] dimanche 1er février	18:50	クリスマス・ストーリー [150min] <i>Un conte de Noël</i>
2日 [月] lundi 2 février	18:50	カミーユ・クローデル ある天才彫刻家の悲劇 [97min] <i>Camille Claudel 1915</i>
3日 [火] mardi 3 février	18:50	フランドル [90min] <i>Flandres</i>
4日 [水] mercredi 4 février	18:50	アッシャー家の末裔 [59min] <i>La Chute de la maison Usher</i>
5日 [木] jeudi 5 février	18:50	ブティ・カンカン [200min] <i>P'tit Quinquin</i> 上映前にブリュノ・デュモン監督によるティーチインあり
6日 [金] vendredi 6 février	18:50	ジーザスの日々 [96min] <i>La Vie de Jésus</i>

■ 入場料金：一般1300円、シニア1100円、学生800円、京都シネマ会員/クラブ・フランス会員800円 ■ チケット販売開始時間：当日、開館時より販売（開場時間は劇場までお問い合わせください/当日券のみ、前売券の販売はございません/本編開始後のご入場はおこわりいたします/整理番号順でのご入場・全席自由席/場内でのお食事はご遠慮ください）



〒600-8411
京都市下京区烏丸通四条下る西側
COCON 烏丸3F
☎ 075-353-4723
✉ www.kyotocinema.jp

(2013年/フランス/カラー/DCP/117分)
原題 JIMMY P. PSYCHOTHERAPY OF A PLAINS INDIAN
監督 アルノー・デプレシャン
出演 ベニチオ・デル・トロ/マチュー・アマルリック/ジーナ・マッキー・ラリー・バイン/ミスティ・アップム
提供 コムストック・グループ 配給 コピアボア・フィルム
オフィシャルサイト <http://kokoronokakera.com>
© 2013 Why Not Productions-France 2 Cinema-Orange Studio

ジミーとジョルジ
心の欠片を探して

2015年
1月24日 [土]
京都シネマ
にてロードショー
全国順次公開



2013年カンヌ国際映画祭
コンペティション部門
正式出品作品



agnès b.



INSTITUT
FRANÇAIS

18es SEMAINES DES

CAHIERS DU CINÉMA

31 JANVIER – 6 FÉVRIER 2015 | KYOTO CINEMA & CINÉ NOUVEAU (OSAKA)

BRUNO DUMONT / JEAN EPSTEIN / ARNAUD DESPLECHIN



INVITÉ SPÉCIAL
BRUNO DUMONT
RÉALISATEUR

特別ゲスト
ブリュノ・デュモン
映画監督

INSTITUT
FRANÇAIS

アンスティチュ・フランセ関西
JAPON - KANSAI

18es SEMAINES DES CAHIERS DU CINÉMA

第18回カイエ・デュ・シネマ週間in関西 特集 ブリュノ・デュモン/ジャン・エプシュテイン/アルノー・デプレシャン

アンスティチュ・フランセ日本とカイエ・デュ・シネマ誌が提携し、選りすぐりのフランス映画を紹介する「カイエ・デュ・シネマ週間」は今回で第18回を迎えます。今回は、犯罪ものとコメディという異なるジャンルを見事に融合し、新境地を見せ、2014年カンヌ映画祭で高い評価を得、「カイエ・デュ・シネマ」誌の年間トップテンでは第1位に選出された『ブティ・カンカン』の監督、ブリュノ・デュモンを迎えます。そしてクラシック部門として、ブリュノ・デュモンが敬愛する1920年代のアヴァン・ギャルド映画の中心的存在であるジャン・エプシュテインの作品も紹介します。

また京都シネマでは、新作『ジミーとジョルジュ 心の欠片を探して』の公開を記念して、アルノー・デプレシャンの過去作品2本を特別上映します。

RÉTROSPECTIVE BRUNO DUMONT

ブリュノ・デュモン特集



ジーザスの日々

La Vie de Jésus

フランス/1997年/96分/カラー/35ミリ/日本語字幕付

出演 ダヴィッド・ドゥーシュ、マルジョリー・コットレル、カデル・シャアトゥ

少年フレディは、恋人のマリーや仲間の前でてんかんの発作を起こしたり、バイクで何度も転んでしまったりと、自分自身をうまくコントロールすることが出来ない。苛立ち、不機嫌さを抱えながら、一方で、兄を亡くした友人を気遣い、飼っている小鳥に鳴きかたを教えて『鳴き声コンテスト』で優勝するなど、人並み以上の優しさも持っている。マリーとはセックスの喜びで、仲間たちはバイクの遠出や、プラスバンドで時間をつぶし、退屈さを紛らせているフレディ。しかし、彼の閉塞感は、マリーへ付きまとうアラブ人少年の登場で一転する。少年への激しい憎しみと差別意識は、レイプ騒動や、ついには恐ろしい暴行の瞬間に招いていく。



ユマニテ

L'Humanité

フランス/1999年/148分/カラー/35ミリ/日本語字幕付

出演 エマニュエル・シコッテ、セヴリヌ・カヌール、フィリップ・テュリエ

少女の強姦殺人事件。捜査担当のファラオンは、刑事らしくない、無垢でナイーブな男。彼は、下半身が剥き出しにされ、野ざらしになった無残な死体や、思いを寄せている女性ドミニの、恋人ジョゼフとのセックスを目撃するショッキンな体験をしながら、ただ悲しみとともに、それを静かに受け入れる。進展しない捜査の一方で捉えられる。ファラオンとドミニ、ジョゼフの日常。田舎町の菜園や、町外れの道のどこまでも美しい風景。そうした張りつめた静謐さの作り出す異様な時間の流れと、性器もが映し出され、肉体のぶつかり合いとして描かれるセックスが、不安にさせるほどの強烈さで観る者に迫り、挑発していく。



フランドル

Flandres

フランス/2006年/90分/カラー/35ミリ/日本語字幕付

出演 アデライド・ルルー、サミュエル・ボワダン、アンリ・クルテル

人間のあらゆる罪を受け止めるかのように男たちと体を重ねる少女の姿を描き、カンヌ国際映画祭で審査員グランプリを受賞した衝撃作。地方で暮らす少女バルブは、複数の男たちと関係を持つ。彼女に強い想いを抱くデメステルもその内の1人だった。やがて他の男たちと戦場に赴いた彼は、そこであらゆる罪を犯していく。それに呼応するかのように、バルブの精神は異常を来たし始める。

『ジーザスの日々』『ユマニテ』と続くデュモンのフィルムの中でもっとも完成しているのが、このフィルムであることはまちがいない。もちろん、完成とはいっていい何なのか、という問題もあるだろう。明確な回答は見つけられないが、もしこのフィルムが「欲望」と「現実」を描きたいとするなら、その延長線上にこのフィルムが来ることは明らかだろう。「欲望」と言っても、固有のそれではなく、つまり、ぼくが君を求める、というものではなく、女であることによって、男性の性器を求めるということ、あるいは「現実」といっても歴史の中で、固有の時刻の中で生起する出来事という意味ではなく、「土」とか「血」といった物質性という意味においてのことだ。(梅本洋一)



ハデウェイヒ

Hadewich

フランス/2009年/105分/カラー/35ミリ/日本語字幕付

出演 ジュリー・ソコロウスキ、カール・サラフィディス、ヤシーヌ・サリム、ダヴィッド・ドゥワエル

修道院で生活するセリーヌは、13世紀フランドル地方のキリスト教神秘主義的詩人ハデウェイヒに傾倒し、激しく感化され、その盲目的な信仰心ゆえに修道院を追われる。パリの大邸宅に戻るが、裕福な家庭で、やり場のない気持ちをもてあました彼女は、イスラーム系のふたりの男性ヤシーヌとナシールと出会う。やがてセリーヌは神への情熱的で倒錯的な愛に駆られ、恩寵と狂気のはざまで、危険な道へと導かれてゆく。

映画の仕事をする時に、いつも思っているのが理想を持たないことです。だから、プロの俳優を使いません。実際は普通のものから生まれます。プロだと想像を持ちたがります。平凡である、普通であること、その人が世界で一つであることが、普遍的に実現を訴えることが出来るのです。愛は様々な多様性の中から生まれるもののです。理想からではなく、つまり、ぼくが君を求める、といいうものではなく、女であることによって、男性の性器を求めるということ、あるいは「現実」といっても歴史の中で、固有の時刻の中で生起する出来事という意味ではなく、「土」とか「血」といった物質性という意味においてのことだ。(ブリュノ・デュモン)



アウトサイド・サタン

Hors Satan

フランス/2011年/110分/カラー/35ミリ/日本語字幕付

出演 ダヴィッド・ドゥワエル、アレクサン德拉・ルマール、ヴァレリー・メスター

フランス北部の海岸沿いの町コート・ド・パール。小さな村のそばに広がる砂丘や湿地帯。そこに、ひっそりと暮らす謎めいた男がいる男は狩りをし、祈り、火をおこす。農家の娘が彼の世話を焼き、ふたりは不思議な絆で結ばれるが、やがて娘の周囲で人が殺される…。息を呑む映像美で善悪の彼方を見つめる。第64回カンヌ国際映画祭のある視点部門に出品作品。第一回サンジェルマン賞の最優秀フランス映画賞を受賞。

まるで宗教のように、それを強く信じるだけでいい、懸かつか美しい映画。ブリュノ・デュモンを信じ、彼に着いて行く。大きく目を開いて。(フィリップ・アズーリ「リベラシオン」)



カミュー・クロードルある天才彫刻家の悲劇

Camille Claudel 1915

フランス/2013年/97分/カラー/デジタル上映/日本語字幕付

出演 ジュリエット・ビノシュ、ジャン=リュック・ヴァンサン、エマニュエル・カウフマン

1864年、フランスに生まれたカミュー。19歳の時、彫刻家ロダンに弟子入りし、23歳上の彼と恋に落ちるが、15年に及んだ2人の恋愛関係はやがて破局。父親の死後、カミューは家族によってパリ郊外の精神科病院へ送られ、1915年、彼女は今や南仏のモントヴェルク精神科病院で周囲の人々から孤立しつつ、つい毎日を送っていた。弟のポールが週末に訪ねてくると知られ、カミューはそれを心待ちにするのだが…。

『カミュー・クロードル 1915』の静かなる力は、切り替えしの魔法を感じることもあるだろう。(ステファン・ドゥローム「カイエ・デュ・シネマ」)

HOMMAGE À JEAN EPSTEIN ジャン・エプシュテイン作品



アッシャー家の末裔

La Chute de la maison Usher

フランス/1928年/59分/モノクロ/35mm/サイレント/日本語字幕付

出演 マルグリート・ガス、ジャン・ドビュクール、シャルル・ラミー

ある男が友人であるロデリック・アッシャーからの不穏な手紙を受け取り、彼を助けに駆けつける。アッシャーは不気味な雰囲気が漂う城に住んでおり、彼の妻、マドレーヌ夫人は不思議な事情から死に至ってしまう。夫はその死を信じることができず、棺を釘でとめることを禁じる。彼は自分の愛しい人が戻ってくることを信じて疑わない。そして夫が彼女の生還を待っている最中、その言葉どおり、彼女はある晩、再び現れた。エドガー・アラン・ポーによる複数の小説を下敷きに、スローモーションや多重露光、移動撮影など「フォトジェニック」な技法を駆使して映画の詩的表現を極めたジャン・エプシュテインの代表作。新人時代のルイス・ブニュエルも助監督で参加している。

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品



ブティ・カンカン

P'tit Quinquin

フランス/2014年/200分/カラー/デジタル上映/日本語字幕付

出演 アラヌ・ドゥラエ、リューシー・カロン、ベルナール・ブリュオスト

プロネ地方の海岸沿いの村に住む少年ブティ・カンカンは、ガール・フレンドのイヴ、仲間たちと自由に休暇を過ごしている。ある日、海岸に警察のヘリコプターが着陸し、洞穴から牛の遺体を引き出しているのを目撃する。その牛のお腹からバラバラにされた女性の遺体を見つかる。そして牛の遺体はもう一体、また一体とふえていく…。警察部長のヴァン・デル・ウェイデンと部下のリュデュ・カルパンティエ、ズッコケ二人組、そしてブティ・カンカン率いる子供たちは、それぞれこの奇妙な事件を追っていく。テレビ局アルテから白紙委任状を受けたデュモンが撮影場所でオーディションした素人たちとコメディと犯罪ものが見事に融合した傑作を生み出した。テレビ・シリーズでは通常ありえないシネマスコープ撮影に固執し、今回はカンヌ国際映画祭監督週間で上映されたバージョンと同じく、映画版シネマスコープで上映。



ブリュノ・デュモン BRUNO DUMONT

1958年、北フランスのフランドル地方の町バイユールに生まれる。長編処女作『ジーザスの日々』は自身の故郷バイユールを舞台に、無軌道な少年の鬱屈した日々と、一瞬にして芽生える狂気を描き、その独創性と斬新さで第50回カンヌ国際映画祭にてカメラ・ドール特別賞ほか多数を受賞する。続く第2作、少女の殺人事件を捜査する警部補の姿を描いた『ユマニテ』は、第52回の同映画祭にて審査員グラントリ、主演男優賞、主演女優賞と主要部門で三冠という快挙を達成した。2006年の『フランドル』は第59回カンヌ国際映画祭で2度目となるグランプリを受賞。2009年の『ハデウェイヒ』は第34回トロント国際映画祭のスペシャル・プレゼンテーション部門に出品され、国際映画批評家連盟賞を受賞した。2013年、ジュリエット・ビノシュをカミュー・クロードル役に起用し、初めて実在の人物を描いた『カミュー・クロードルある天才彫刻家の悲劇』を発表。第63回ベルリン国際映画祭のコンペティション部門に出品。2014年、アルテ制作で初のテレビ・シリーズ『ブティ・カンカン』は第67回カンヌ国際映画祭の監督週間部門で特別上映され、世界的高い評価を得、同年の『カイエ・デュ・シネマ』誌の年間トップテンでは第1位に選出された。デュモンの作品では、多くの場合、撮影される場所でオーディションされた素人が起用され、彼らの特徴を最大限に引き出し、映画に反映させることによって、登場人物たちにとてつもない魅力と深さを与えることに成功している。

RÉTROSPECTIVE ARNAUD DESPLECHIN

『ジミーとジョルジュ 心の欠片(かけら)を探して』公開記念アルノー・デプレシャン特集



キングス&クイーン

Rois et reine

フランス/2004年/150分/35ミリ/カラー/日本語字幕付

出演 マチュー・アマルリック、エマニュエル・ドゥヴォス、カトリーヌ・ドヌーヴ、モーリス・ガレ

光り輝くような美しさを放つ「クイーン」こと、ノラ・コトレル。ようやく自分に相応しい男性と結婚しようとしていた彼女は、癌を宣告され、臨終を迎える父の傍らで、過去の記憶や、亡靈たちに取り囲まれ、辛い時を過ごす。落ちぶれた「キング」、チェロ奏者のイズマエル・ヴュイヤールは、精神病院に強制的に収容されてしまうが、そこで様々な人たちと出会い、その「休暇」を樂しげに過ごすことになる。別々に展開していたこのふたつのストーリーはやがて映画の中盤で交錯する。実はノラとイズマエルはかつて恋愛人同士だった。マチュー・アマルリックは本作によって2004年度セザール賞で、主演男優賞を受賞。



女は、癌を宣告され、臨終を迎える父の傍らで、過去の記憶や、亡靈たちに取り囲まれ、辛い時を過ごす。落ちぶれた「キング」、チェロ奏者のイズマエル・ヴュイヤールは、精神病院に強制的に収容されてしまうが、そこで様々な人たちと出会い、その「休暇」を樂しげに過ごすことになる。別々に展開していたこのふたつのストーリーはやがて映画の中盤で交錯する。実はノラとイズマエルはかつて恋愛人同士だった。マチュー・アマルリックは本作によって2004年度セザール賞で、主演男優賞を受賞。

のヴュイヤール夫妻には、かつて4人の子供がいた。しかし長男のジョゼフは白血病を患い、家族の誰も適合しなかったことで骨髄移植ができずに、わずか7歳での世を去った。それから長い年月が経ち、それぞれに独立した3人の子供たち。長女エリザベートは生真面目な劇作家。一方の次男アンリは一家の問題児。そして心優しい末っ子のイヴァン。6年前、アンリと折り合いの悪かったエリザベートは、とうとう彼を家族から追放して絶縁状となっていた。そんなある日、母ジュノンはジョゼフと同じ白血病を宣告されてしまう。そこで、ジュノンを助けるため、すっかりバラバラだった家族は、クリスマスを前に久々の再会を果たすのだが…。

それぞれの登場人物は、ミュージック・ホールのように、それぞれが自分に適したナンバーを弾いている。(アルノー・デプレシャン)

クリスマス・ストーリー

Un conte de Noël

フランス/2008年/150分/デジタル上映/カラー/日本語字幕付

出演 カトリーヌ・ドヌーヴ、ジャン=ポール・ロシオン、マチュー・アマルリック、アンヌ・コンシニ、メルヴィル・ブロー、エマニュエル・ドゥヴォス、キラ・マストロヤンニ

フランス北部の街、ルーベ。年を重ねてもなお仲むつまじいアベルとジュノンの夫婦には、かつて4人の子供がいた。しかし長男のジョゼフは白血病を患い、家族の誰も適合しなかったことで骨髄移植ができずに、わずか7歳での世を去った。それから長い年月が経ち、それぞれに独立した3人の子供たち。長女エリザベートは生真面目な劇作家。一方の次男アンリは一家の問題児。そして心優しい末っ子のイヴァン。6年前、アンリと折り合いの悪かったエリザベートは、とうとう彼を家族から追放して絶縁状となっていた。そんなある日、母ジュノンはジョゼフと同じ白血病を宣告されてしまう。そこで、ジュノンを助けるため、すっかりバラバラだった家族は、クリスマスを前に久々の再会を果たすのだが…。

それぞれの登場人物は、ミュージック・ホールのように、それぞれが自分に適したナンバーを弾いている。(アルノー・デプレシャン)